

和紙 だより

■目次

越前和紙への提言 福嶋秀子さん	1
活動紹介 紙守	2
滝き場探訪(株)石甚製紙所	3
和紙ミニコーナー	4
情報欄	4

越前和紙への提言

■福嶋 秀子(ふくしま ひでこ)
 大阪生まれ。関西外国語大学スペイン語学科卒業。美術工芸店勤務中から、仕事の合間に作品製作を始め、1998年、ANS'Sギャラリー(大阪)にて、初の個展を開く。2004年、福井県今立にて三ヶ月、和紙作りを体験。和紙の消費を促すことを目的に、暮らしにいかす和紙の小物やアクセサリを提案。アトリエ、催し物会場で多数の講習会を行う傍ら、創作屏風作品などを多くの個展、海外での展覧会に出展。NHK「すてきにハンドメイド」出演、ミラノ「日本のかたち」展参加。著書「暮らしの中の和紙のかたち-天然素材で作る和紙小物」(2009年、木耳社刊)
 URL: <http://www.katachiarumono.com/>



■福嶋秀子さん(和紙作家)
 「何かになるのを静かに待っている奥ゆかしい素材」

●口べただけれど、何て奥ゆかしい素材!

和紙を最初に記憶に留めているのは、京都の平原で和紙のちぎり絵を見た時です。「なんて暖かい絵なんだろう!」と思いました。その後、和紙という素材に惹かれていき、頭の中で作品の構想が浮かび、自分なりに材料を選んで、作品を作っていました。そしてそれらを一旦外に出してみようという思いで、最初の個展を大阪で開きました。個展というと、それまで遠い存在でしたが、和紙でこんなものが作れるのかと見る人にとっても和紙を新鮮に感じてもらえるよいきっかけになりました。

その後、和紙を造っている過程を見ておきたいと思い、和紙関係の方に紹介して頂いた越前滝き場を見たり、加工の工程を間近で見たり、チトリなどのお手伝いをさせてもらったりして、三ヶ月くらい過ごしました。

私は芸大を出たわけでもなく、職人を目指しているわけでもない。既成の考えにとらわれずに、ただ和紙を使って何が出来るのか、自分が納得できる独自の答えを探していました。「どうして和紙が好きなのだろう?和紙のどこが好きなのだろう?」和紙を知れば知る程、素材としての和紙の魅力を追求したくなっていきましました。作っている現場を見て、ほんとに手間がかかっているのだなあと知って、和紙がさらにいとおしく思えました。陶芸やガラス工芸と違って、二次加工が必要な和紙は、滝きあげて紙として作られた後、もう一度人の手を加えないと物としては完成されない。これだけ手間暇

を掛けて生まれてきて、使われるのを静かに待っている素材!「口べただけれど、何て奥ゆかしいんだろう!」と感じ入りました。

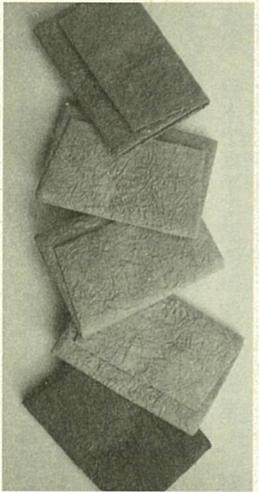
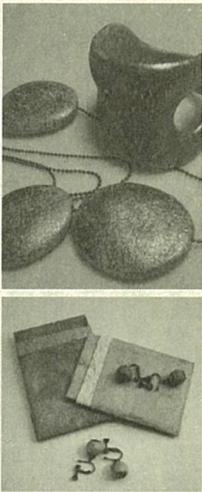
●和紙を世の中に求められる形にするアイテ

ム
 越前から帰って和紙にもう一度向き合おうと、いろいろな作品が次から次へと出てきました。周りの人は、「これはプロダクトデザインだね。」「アート系だよ。」と進む方向を示して下さるのですが、今思うと、自分のほき出した作品自体が進むべき道を教えてくれたような気がしています。

結果的に、「和紙って何でも作れるんだ!」と思いい、既存のものではない今の世の中に求められる形にしていこうと考えました。

和紙の特徴は、軽くて、丈夫。しかも独特な風合いが残っています。何度も晒して余計なモノを取り除いてつくる、人が作った自然の形です。そんな和紙をアクセサリにしてみようと思いました。軽くて丈夫な上、無機質ではなく、身体に馴染み、肌馴染み、多彩な色合いの素

教室で作るペンダント、イヤリング、カードケース

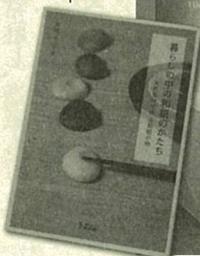


肌のようなアクセサリです。もうひとつは屏風です。屏風はいくつかの工程で職人さんの手を経由させた共同作業で完成します。それぞれが、自分の仕事を丁寧に行って、最終的に住む人のイメージや空間に溶け込

2008年「日本のかたち」展 展覧作品



著書
 「暮らしの中の和紙のかたち-天然素材で作る和紙小物」



むことが出来ます。和紙を屏風にする時に、木の癖を知る建具屋さんが丈夫な骨をつくり、和紙の癖を知る表具屋さんが美しく貼り重ね仕上げます。プロの職人さん達の手にかかると、折り目も端正で、清々しく、驚く程美しく仕上がります。まるで思いやりや素材への尊敬が屏風の中に閉じ込められるようです。そして、それが最終的に家の中に収まると、自然素材特有の年を重ねる毎に美しくなっていくものとなるのです。何年か経つとその家の記憶となり、家人と一緒に時を刻むことができます。人に近くなり、家に馴染む。屏風はずっと私たちの暮らしにあった生活のアイテムだと思おうのです。

■世界紙文化遺産支援財団
紙守(かみもり)

「日本古来の古典的な紙を存続させたい」

東京日本橋に、日本画家、書家、文化財修復師などが必要とする保存性の高い紙や膠を、出来るだけ日本古来の材料と製法で製造・販売している「かみ屋」という店がある。その中に、一般財団法人、世界紙文化遺産支援財団「紙守」(平成二十年十二月設立)事務局を訪ねた。代表理事の渡邊明義さん、財団仕掛け人の北見音丸さん、執行理事の稲森紀代子さんご夫婦のお三方に話を伺う。



渡邊明義さん、北見音丸さん、稲森紀代子さん

●背景

一九七〇年代、紙生産の工業化が始まった二八五〇年頃以降の書籍・文書に用いられてきた紙が、科学的処置を施さなければ二世紀末にはその九十%がポロポロになるといふ、いわゆる「酸性紙問題」が世界で騒がれた。これら世界の紙文化財の修理に日本の伝統的で質の良い紙は非常に適しているニーズが高いが、高額なことが普及の障害の一つになっているようだ。「日本では、西洋紙が入ってくる以前の日本の紙類は、酸性物質をほとんど含まない鞆



最近人気の手提げ、クラッチバッグ
広がり、今の世の中から次の世の中に人を想う気持ちと手作りの良さが共に続いて欲しいと願っています。



●和紙でしか伝わらないものをハンドメイドして

和紙業界は右肩下がりで、職人さんも「世の中の人が和紙がなくなってもいいと思うなら、なくなってもいいよ」そんな話を聞くと、悲しくなってしまう。手間のかかる高価な和紙をどうしたら皆さんに使ってもらえるか。喜んでもらえるか。それは自分の家族や親しい人、大切な人を想ってつくる手作りが一番良いのではと。そんな思いでアトリエやイベントでの講習会をしています。材料の紙は、いろいろ試して、これだと思うものを全国から選んでいます。ご



「紙守」のある、かみ屋 正面

皮繊維だけで構成されていることから、極めて保存性に優れ、紙がダメになるという意識は薄かったのではないかと。わが国の紙業界で文化財に適した質の高い紙の概念が失われつつあるのも問題。」と北見さんは語る。

また、日本では手工業的紙産業は衰退し、材料も安価な輸入楮に頼るようになってきている。文化庁や東京文化財研究所などで永年文化財保護に関わってきた渡邊氏は「文化庁の紙に関する仕事は、特定の紙とその紙を漉く優れた技の持ち主を指定もしくは選定して保護することにあり、紙材料の生産問題は管轄外社会のいわゆる『和紙』に関する関心も専ら漉き手にばかり注がれている。原材料の生産や経済性の問題を視野に入れた政策がなければ、『古典的紙』の生産衰退に歯止めがかからない。」と語る。

●ぶれない強い目的意識と活動

保存性の高いわが国の紙を絶やさず提供し、古典的紙漉技術を存続させるのが「紙守」の目的だ。

- ・ 高齡化と収益不足により衰退した原料栽培を、原料を生産者に満足される価格で買い取り、地域の産業として復活させる「紙原料の生産支援」活動。
- ・ 酸性紙問題で危機に瀕している世界の文書・図書の保存と修理のため「日本の紙供給支援と修復技術協力」活動。

紙文化財の修理にも利用価値の高い日本の裏打ち技術習得を希望する技術者や職人を養成する「傳習館」の活動。

生産支援は現在、四箇所で行われている。高知県黒潮町では原産の「若山楮」の復活栽培と



滋賀県若荷村 三極定植の作業風景

生種楮と那須楮の栽培と買い取り支援。神奈川県厚木市では、学校法人国際学園と協力して星槎湘南大磯キャンパス内に「星槎紙守かみ研究所」を二〇一〇年に設置し、神奈川県大山の三極を採取、加工、紙製作を一貫して行っている。修復には「似寄りの紙」が必要で、研究所は、修復に必要な多様な紙と造紙技術の研究拠点で、漉き手二人が常駐し、造紙も行う。

二〇〇四年、旧東独ワイマールのアンナマリア大公妃図書館(世界文化遺産)が火事に見舞われた。建造物は二〇〇七年復元されたが、損傷を受けた多くの貴重蔵書はまだ修理が続けられている。脆くなった本紙の補強には補強だけでなく、修理後も文字が読めるようにする必要があり、古来日本のごく薄い紙を求めているとの情報入手。二〇〇八年、六名が現地調査に赴き、蔵書修理支援を開始。技術協力や修復用紙の無償提供を行った。使われたのは「天使の包帯」(Angel's Bandage)と名付けられた超極薄の紙だ。また「天使の包帯」は、イスラム圏で屈指の図書保有数を誇るモロッコ



天使の包帯
アンナマリア大公妃図書館の修復技術者の方々と



博物館の実習の様

国立図書館の蔵書修理にも二〇一一年から無償提供されている。傳習館は、紙守会員である表具師が毎週土曜に集まり、技術交換の指導も行い、文化財の保存や修理の歴史、思想について話し合う肩ひじの張らない研鑽の場である。

●「和紙」という呼称でひとくくりにするのはなく…

「文化財修理や絵描きさんに提供される紙は、コストがかかり値段は高くなりますが、古典的方法で手間をかけて作る紙がいい紙といえます。『いい紙』の定義は用途・用向きを考えた時に当然異なってきます。紙製品もその種類によつては値段を抑えるため、タイ楮を使った紙も用途に合ったいい紙なのでしょう。これからは、組成等の情報も開示して、地域ブランドで『〇〇紙』と呼んだ方がクリアになり、必然的に個性的になると思います。」と北見さんは語った。

二〇〇八年「紙守」の思想を元に「大瀧紙」が開発された。監修渡邊明義氏、紙質設計は元高知県紙産業技術センターの大川昭典氏、実製作は土佐の濱田佳代子氏、発売元は「日本橋(株)かみ屋」。「紙守」の活動も「大瀧紙」も地道に細く長く続けていきたいそうだ。

漉き場探訪

■(株)石甚製紙所

曹洞宗寺院向けの特殊用途和紙

全国で唯一紙の神様を祀つてある「大瀧・岡太神社」の側の小径を入つていくと、(株)石甚製作所がある。昭和二八年創業。屋号の「石甚」の名は、現社長の伝統工芸士、石川和伸さんの祖父で創業者の甚次郎さんから取つたもの。石甚の前身は紙問屋で、戦後になつてから、紙も漉くようになった。総勢五人で、手漉き和紙製品を始め、曹洞宗寺院向けの商品を製造加工、販売している。

●永平寺店の開店がきっかけ

鎌倉時代に道元が開いた曹洞宗は禅宗の一派で、二つの大本山がある。道元が開山した福井県の永平寺、福井県武生出身の道元の弟子で教義を広めた螢山禪師が



社長の石川和伸さん

能登に開き、一九〇七年に能登から横浜市鶴見区に移つた總持寺。現在、永平寺と總持寺は両輪の輪のように協力し合い、寺数日本二(二万五千軒)の曹洞宗という大教団を形成している。

一九八〇年頃、和伸さんの祖父甚次郎氏はこの地で抜群の知名度を誇る永平寺に向かう街道沿いに店を開いた。本社、石甚で製造する葉書、封筒、名刺、カードなどのお土産品販売と、



石甚 永平寺店

当時まだ珍しかった「紙漉き体験」のできる店だ。バスで観光に来る一般客の他に、永平寺で修行を積む雲水さん、大きな法要などがある時は全国から集まる住職さんなどが、店に立ち寄るようになった。そのうちに「こんなのは出来るか?」「こんなのを作つてくれるか?」と頼まれるようになったのがきっかけで、主に僧侶同志がやりとりする祝儀袋や不祝儀袋等のお寺関連紙製品の製造を引き受けることとなった。

曹洞宗では、お金を包むのに使用する包みは「可漏(かろう)と呼ばれ、拜表(はいひょう)と呼ばれる帯に名前や団体名を墨でしたため、包みの上に載せる。拜表には、赤色(祝い事)、黄色又は青色(弔事)等があり、場面によって使い分ける。

見せて頂いた「帯可漏」「三折可漏」のサンプルには、日頃見たこともない佛教用語が目白押しである。慶事・弔事の他にも、住職就任時のお披露目「晋山結制披露」、住職の家族がやりとりする心付け「寺族志」、修行達成を祝う「謹上達修九拜」など、目的はお礼、香典、お祝い、手土産持参など多岐にわたり、縁を大切にされるお寺ならではの贈答文化を垣間見ることが出来る。

●一般の目に触れない市場
お寺から直接注文が来る可漏用の紙は、やわ

らかくふつくらした風合いの機械漉き奉書を使う。「帯可漏」が最も正式なもので、規定のサイズを三つ折りにする「三折可漏」も、ひとつひとつ手で丁寧に折るのは奥様の役割。拜表の紙は加工業者に依頼し、墨載りがよく、文字が浮き立つよう、顔料系の色で赤や黄を塗つてもらおう。できた大きな紙を幅五センチ、長さ三十センチほどに裁断した「拜表」に仕上げ、注文があれば、そこに指定された文字を書き込むという。拜表の色は地域によって多少違いがあり、灰色や青色もある。ロットは、通常は百〜二百枚の世界だが、大口になると、可漏四十枚を箱に入れた三千円くらいのセットの注文が百個単位で舞い込むこともある。殆どがピート注文。特に積極的な営業はしていないが、寺関係者の口コミで伝わり、現在では曹洞宗の四十五%程の寺に納めていくまでになった。

「總持寺の貫首まで務めた方が開いた御誕生寺(武生市)という新しいお寺などは、オリジナルの略式の可漏を考え、こんな風にしてくれと所望されたので、うちで作つて差し上げました。それを見た他のお寺から、あそこと同じものが欲しいと注文があったので、一応きちんとご住職にお伺いを立てましたら、快く承諾して下さい、今では拜表の入らない「略



略可漏

三つ折可漏

帯可漏

「可漏」という人気商品になりました。」

寺院向け以外にも、問屋に卸す葉書・便箋類を始め、毎年五十件くらの卒業証書や各種団体の認定書や免状に透かし入りの手漉き紙を納入。襖の受注などが来た場合は、問屋時代から付き合っている回りの漉き場に製造依頼し、納品する。

●未永く必要とされる仕事

永平寺店を出店した祖父甚次郎氏は、茶や陶器が好きで、お洒落な粋人だったと聞く。バス旅行が多かった時代には、主だった旅行会社や、北海道の観光業者にまで「永平寺にお越しの折は、是非うちの店へお立ち寄り下さい」と売り込んだという。

「年々永平寺観光のバス旅行も減ってきたものの、当時、東尋坊、芦原温泉、永平寺くらいしかなかったこの地域の一大観光地に目を向けた祖父の功績は大きかったと感謝しています。永平寺店は、お寺向けの仕事受注にシヨールーム的な役割を担っています。お寺に製品を納めることが出来るのは有り難いことで、なくなるものではないと思いますが、お寺に必要とされる和紙製品を未永く提供できたらと願っています。お坊



かつては襖紙を漉いた土壁の工房

さんも着物や作業衣をきちんと着て、じっくり見て行かれますので、人の顔を覚えるというのは商いのコツかもしれませんね、これは家内の功績ですが……と和伸さんは笑った。

■越前和紙が重要有形民俗文化財に

人々が日々の生活の中で育み、継承してきた風俗慣習、芸能、技術に用いられる衣服、器具、家屋などの有形民俗文化財の特に重要なものを国が指定する重要有形民俗文化財に、越前和紙の用具・製品・紙など二五三三三という膨大な点数が指定され、去る三月十日、越前市の教育長などが指定証書交付式に出席した。指定されたのは、越前の漉き場、産地問屋などが市の紙の文化博物館に寄贈したものや、県和紙工業協同組合などが収集してきたもの。紙漉きに用いる多様な桁や簀を始め、福井藩の「御紙屋」(おんかみや)三田村家や加藤河内家が所蔵する藩札サイズを揃えるための定規なども含まれており、紙幣、証券用紙の生産に繋がる道具は越前和紙の歴史を物語っている。又、紙漉き職人初代岩野平三郎が漉いた岡大紙も含まれ、国内の和紙文化資料として重要と評価された。



紙を漉く、手のあとをたどる。越前和紙製作用具展



紙を漉く、手のあとをたどる。越前和紙製作用具展
2/21(土) 3/23(日)
会場：福井県立歴史民俗資料館
10:00～17:00
入場料：無料
主催：福井県立歴史民俗資料館
協賛：越前和紙工業協同組合

このコレクションは、二月二十一日(土)～三月二十三日、越前市武生公会堂記念館で「紙を漉く、手のあとをたどる、越前和紙製作用具展」として特別展示され、講演会、ギャラリートーク等も行われた。

情報欄

●イベント情報

■神と紙のまつり(大掘り出し市)

時:2014年5月3日(土)～5日(月)
場所:和紙の里通り(越前市新在家町)特設テント
大掘り出し市、バザー、教室等あり

■大瀧神社・紙祖神 岡太神社春季祭礼

時:2014年5月3日(土)～5日(月)
場所:大瀧神社・岡太神社(越前市大滝町)

■和紙青年部企画展「X(かける)和紙」展

時:2014年4月26日(土)～6月1日(日)
場所:卯立の工芸館(越前市新在家町)
福井県和紙工業協同組合青年部会によるアート展

■紙の文化博物館テーマ展「越前和紙の匠たち」

時:2014年4月5日(土)～5月25日(日)
場所:紙の文化博物館(越前市新在家町)
越前和紙の職人たちを写真家、棚井文雄氏の写真で紹介

■第34回越前陶芸まつり

時:2014年5月24日(土)～5月26日(月)
場所:越前陶芸村(越前町小曾原)
即売、イベント多数

■第43回金沢ペーパーショー2014

時:2014年6月13日(金)～15日(日)
場所:石川県産業展示館(金沢市)
展示、即売、体験、実演あり

平成26年度
紙博テーマ展 I

越前和紙の
匠たち



●書籍紹介

「生紙と紙糸」軽野裕子著 2013年11月25日発行。
ISBN: 978-0-9919238-0-9
カナダのトロント在住の日本人染織工芸家、軽野裕子さんが、和紙から糸をつくる、日本の伝統技術の解説書を自費出版しました。ひと工程ずつ写真で解説され、英語・日本語並記。日本では京都市寺町の「ギャラリー啓」もしくは鹿ヶ谷の「八布京都」で入手可。



編集後記

本号でご紹介した「紙守」のある「かみ屋」は、修復・保存、絵画用紙のみに特化した店で、普通の和紙屋さんとは全く雰囲気が違う。一見倉庫のようで、カラフルでおしゃべりな紙達はいない。「賢人は黙して語らず」という紙の面もちが印象的でした。(よ)

季刊・和紙だより 第42号(2014年春号) 発行日:2014年4月25日 和紙だよりURL→<http://washidayori.jimdo.com/>

発行人:福井県和紙工業協同組合 石川浩 〒915-0234 福井県越前市大滝町11-11 TEL: 0778-43-0875 FAX: 0778-43-1142

編集所:Office YOMOSA 〒606-8225 京都市左京区田中門前町90 TEL: 075-712-8834 FAX: 075-702-6223 E-mail: m-yomosa@smail.plala.or.jp

編集人:右衛門佐美佐子・田中裕子

※無断での転写・転載はお断りします。